

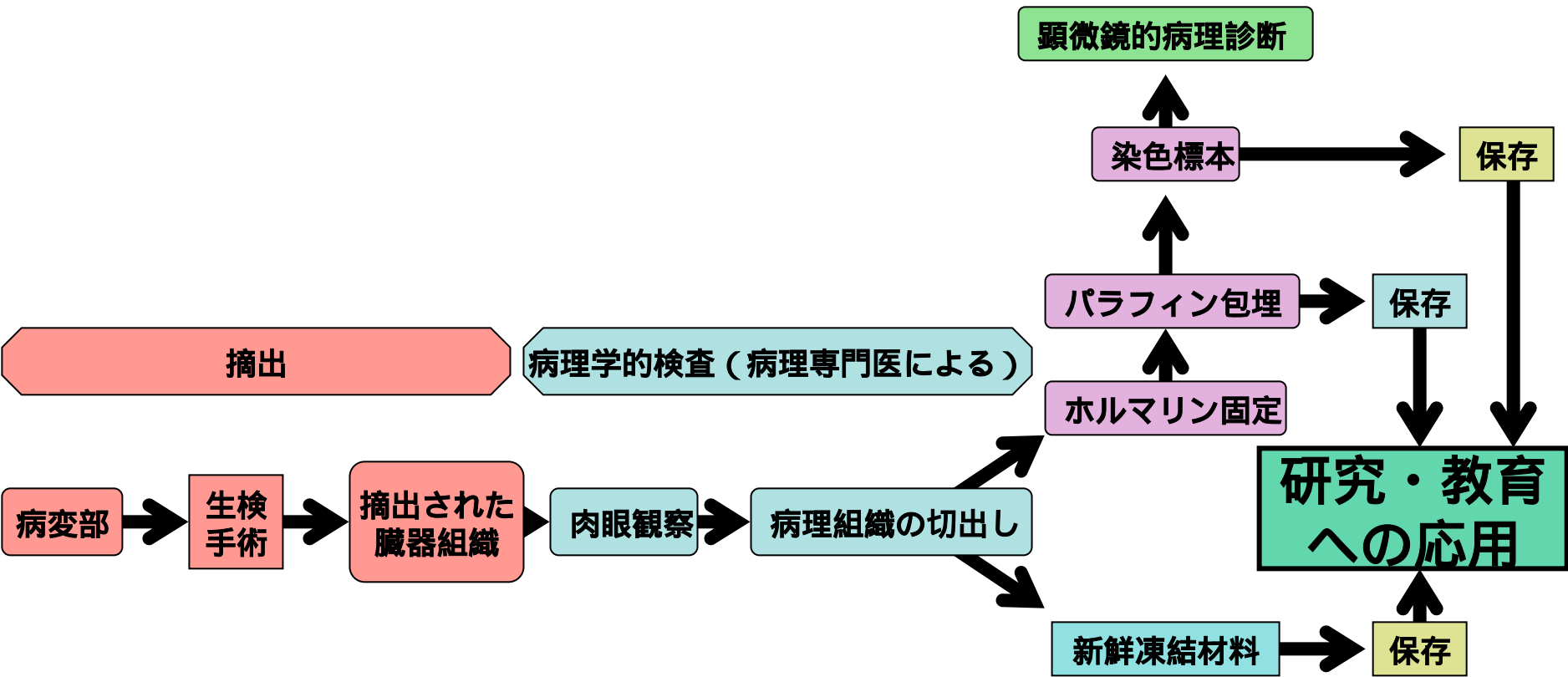
生体材料保存提供部門

部門長 青笹 克之

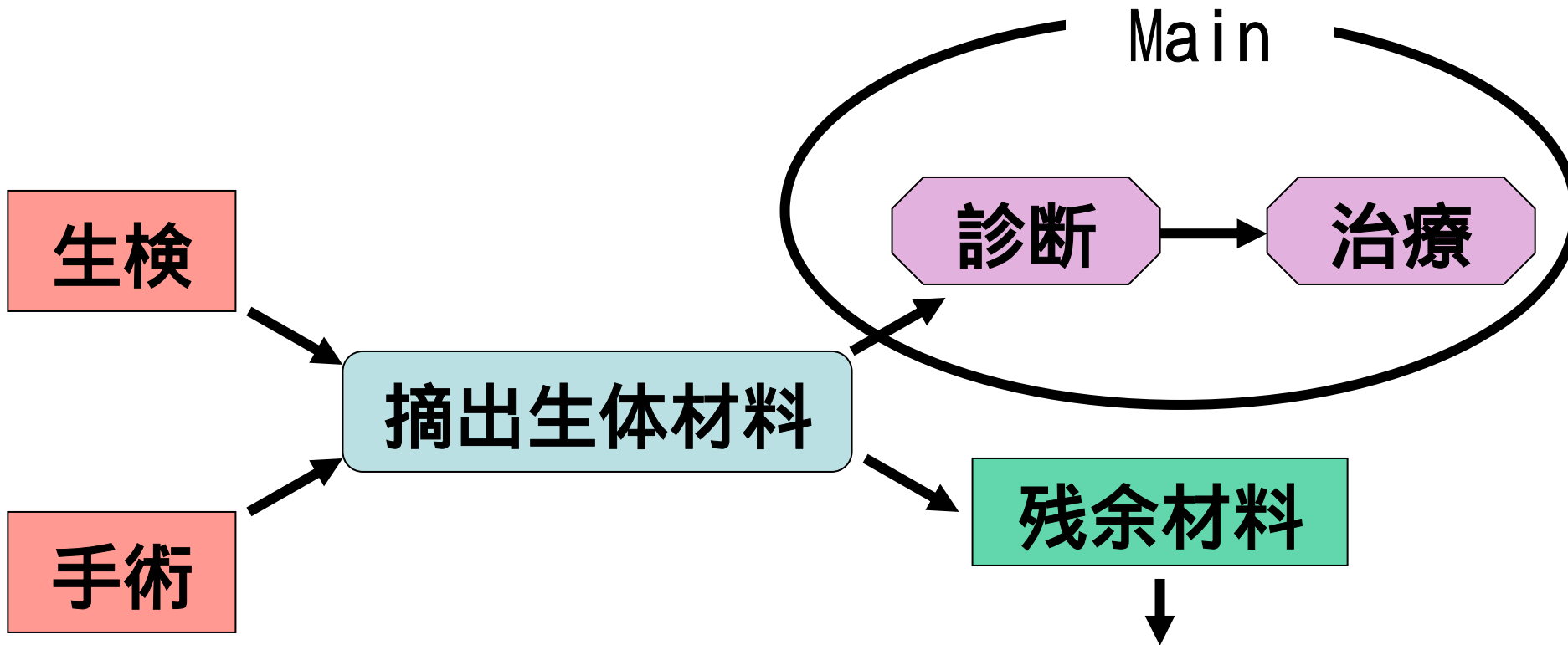
(大阪大学大学院医学系研究科 病理病態学講座 教授)

生体材料ワーキング検討事項

生検・手術により摘出された生体材料処理の流れ



生検・手術により摘出された 生体材料の取り扱いについて



* 年間の生検・手術件数
約8,000件 阪大病院
15~20万件 関連病院

研究・教育への使用
(目的外使用)

目的外使用の明確化

1. 残余材料使用についての統一したインフォームドコンセント書式による患者（家族）の承認が必要
2. 残余材料の統一した管理体制の構築
3. 残余材料の管理者の提供

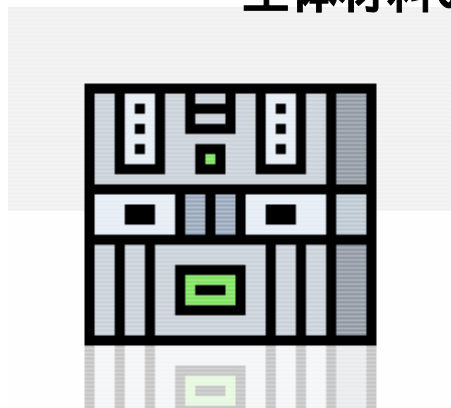
病院



生体材料
(組織、血液、etc)

↓
統一したインフォームド
コンセントによる提供者の承認
生体材料の保存*

生体材料
保存提供部門



倫理委員会

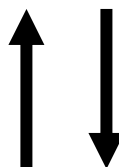
審査の依頼



回答



生体材料提供の依頼



生体材料の提供

大学・国公立・
民間の研究所



*充実した臨床データ
ベースの構築

摘出生体材料の目的（病理組織診断）外使用 —大阪大学医学部の動き—

- 2002.8.1. 倫理委員会
生体材料の取り扱いにおける倫理上の問題点について検討開始
- 2003.9.11. 院内各科で使用するインフォームドコンセントの統一した書式を
医学科会議で承認
- 2003.9.16. 生体材料、剖検材料の目的外使用を検討するワーキング役員を決定
生体材料検討ワーキング
剖検材料検討ワーキング

摘出材料の目的外使用の流れ

目的外使用のインフォームドコンセント取得

